

平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ムシガレイ

学名 *Eopsetta grigorjewi*

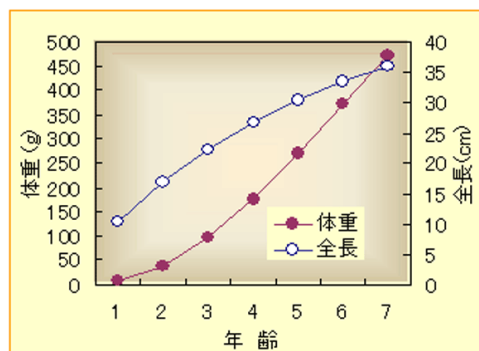
系群名 日本海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学の特徴

寿命： 7歳
成熟開始年齢： 雄2歳、雌3歳
産卵期・産卵場： 冬～春季（1～3月）、対馬周辺海域
索餌期・索餌場： 夏～秋季、日本海西部
食性： 全長約12cmまでは小型甲殻類、12cm以上ではエビ・カニ類
やイカ類、全長約18cmから魚類
捕食者： 不明

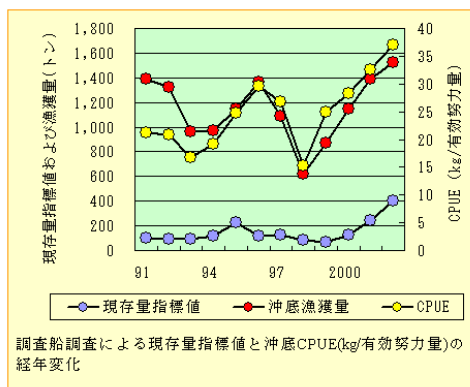
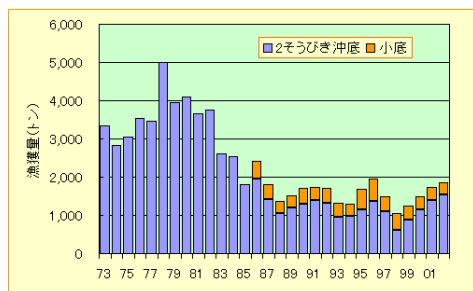


漁業の特徴

日本海西区におけるムシガレイは、底びき網、刺し網、延縄等で漁獲される。漁獲量の大半は2そうびき沖合底びき網(以下沖底)と小型底びき網(以下小底)によるものである。我が国の200海里設定により、200海里内で操業する外国船は許可を要すること、違法操業に対する取り締まりの強化などにより、外国船の操業が減少し、外国漁船による漁獲圧は減少していると考えられる。

漁獲の動向

1986年以前は沖底のみでも2,000～5,000トンの漁獲があったが、1998年には沖底と小底を合わせて1,000トンと過去最低値となった。1999～2002年には増加傾向に転じ、2002年には1,900トンの漁獲がみられた。2002年に日本の200海里内において韓国漁船により1,500トンのカレイ類が漁獲されているが、ムシガレイがどの程度水揚げされているか明らかにされていない。

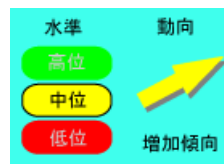


資源評価法

漁獲統計資料に基づき、沖底と小底の漁獲量、資源量指数、有効努力量(網数)、CPUEおよび現存量調査の経年変化により資源評価を行った。

資源状態

1988年以降は、沖底の有効努力量が減少しているなかで、1999年以降のCPUEは増加傾向にある。2002年の沖底のCPUEは37kg/網で、1983年以降最も高い値となった。2002年の沖底の資源量指数は24,000となり、1999年以降増加傾向にある。1999年以降の現存量指標値の経年変化と漁獲量及び沖底のCPUEの経年変化は概ね一致し、現存量指標値も増加傾向にある。以上のことから、資源は1970年代に較べて低い水準にあるが、中位水準で、動向は1988年以降増加傾向にあるものと判断した。



管理方策

資源は中位水準で増加傾向にあると考えられるので、現在の漁獲努力量であれば、2004年初めの資源は若干の増加が見込まれる。このことから、増加傾向にある2000～2002年の平均漁獲量をABClimit、不確実性への配慮からABCtargetをABClimit×0.8とした。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B C limit	17百トン	Cave3-yr	-	-
A B C target	13百トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 沖底と小底の漁獲量、CPUE、資源量指数及び現存量の動向から資源は中位水準で、動向は増加である

資源管理方策のまとめ

- 小型個体の保護策について検討する必要がある

資源評価は毎年更新されます。